

小・中学校における働き方改革

取 組 事 例 集



令和7年3月

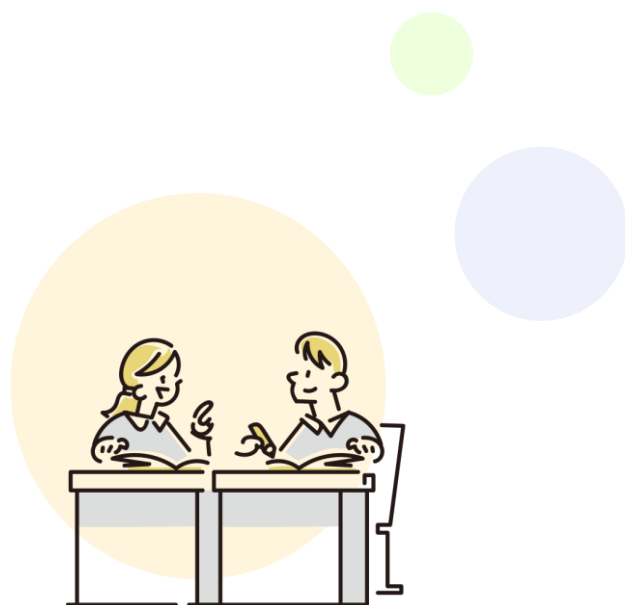
青森県教育庁 教育政策課 学校の幸せ推進室

はじめに

県教育委員会では、令和２年３月に「学校における働き方改革プラン」を策定し、教職員のこれまでの働き方を見直し、こどもたちに対してより効果的な教育活動を行うことができるようになることを目指して、取組を進めております。

本事例集は、各教育事務所による小・中学校への訪問等で提供のあった好事例を中心に紹介しております。これらの事例を各学校で取り入れる際には、一度試行して効果を検証してから本格的に実施することも有効です。

各学校における働き方改革の一層の推進に向けて、本事例集を積極的に御活用いただくようお願いいたします。



目次

項目をクリックすると
該当ページへリンクし
ます！

1 教育課程

◆ 時程の見直し	P. 1
◆ 年間授業時数	P. 2
◆ 定時退勤	P. 2
◆ 行事	P. 2
◆ 校内研修	P. 3

2 組織・体制

◆ 日直制	P. 3
◆ 複数担任制	P. 3
◆ 外部人材の活用	P. 4
◆ P T A	P. 4

3 事務処理

◆ 通信票	P. 5
◆ 指導要録	P. 5
◆ 学年・学級経営案	P. 6
◆ アンケート	P. 6
◆ 学校徴収金	P. 6

4 学 習

◆ 学習指導	P. 6
◆ 定期考査	P. 7

5 部活動

◆ 時間・回数	P. 7
◆ 活動の工夫	P. 7
◆ 地域移行	P. 7

6 会議・打合せ

◆ 職員会議	P. 8
◆ 朝会・打合せ	P. 8

7 連絡・周知

◆ 保護者との連絡	P. 9
◆ 職員間の連絡	P. 9

8 意識醸成

◆ 保護者	P. 10
◆ 職員・校内	P. 10

9 その他

◆ 日常業務	P. 10
--------	-------

1 教育課程

時程の見直し

小学校	
朝活動の削減	朝の運動やドリルタイムなどの活動を合計25分カットした。
短縮校時	水曜日をノー残業デーとし、午前に短縮5時間授業、午後は清掃なしで給食・帰りの会を行い、14時完全下校としている。また、児童下校後の会議は1時間以内、上限を1時間半としている。この結果水曜日は16時30分には多くの職員が退勤し、17時には学校の施設ができる状態となっている。
授業時数の削減	5時間授業の日（1年生は4時間授業の日）を設定し、放課後の教材研究等の時間を確保している。
	毎月最終金曜日を5時間授業としている。
業間時間等の削減	昼の清掃後に実施していた、国語・算数の習熟を図る学習活動の時間をカットし、児童の退下時刻を早めた。
	業間活動を削減し、放課後の教材研究の時間等を確保している。
	短縮日課を週3日設定し、下校時刻を10分繰り上げた。
清掃活動の削減	月曜日と水曜日の清掃を廃止し、教材研究等の時間を確保している。
中学校	
解錠時刻の設定	生徒玄関の解錠を7時30分とし、PTA役員会で合意形成を図った上で、保護者に文書で周知し、更に4月の参観日で詳細を説明した。
登校時刻の変更	生徒の登校完了時刻を7時50分から8時15分へ変更した。
朝活動の削減	朝自習を廃止し、タブレット学習（帰りの会の5分間）を導入した。
	朝読書を廃止し、下校時刻を早めた。
授業時数の削減	週始めを5時間授業とし、放課後の会議の時間を確保している。
清掃活動の削減	給食時間25分、昼休み30分、掃除10分等により、15時35分下校としている。
	毎日行っていた清掃を週2回に減らし、5校時日課を週1回から週2回に増やした。
帰りの会の短縮	宿題等の連絡事項をタブレットに写真を撮って持ち帰ることで、帰りの会を5分短縮することができた。
放課後活動の削減	放課後活動なしを週1回から週2回へ増やした。

年間授業時数	
中学校	
余剰時数の削減	年間授業時数を1015時間ピッタリで設定している。
	年度末業務の時間を確保するため、卒業式後の授業時数を減じている。
定時退勤	
小学校	
退勤時刻の設定	出勤時、ボードにマグネットで目安の帰宅時刻を予定退勤時刻として提示し、見える化している。
	職員の最終退勤時刻を設定している。
行事	
小学校	
精選・簡略化	対外的行事（特別支援学校交流会）の精選をした。
	1学期の参観日を授業参観のみとし、学年・学級懇談は行わないこととした。
	コロナ禍をきっかけに設定した半日開催の運動会を、競技内容を工夫することで児童の充実感を担保しながら継続している。
	校内マラソン記録会を簡素化した。
	入学式や卒業式、運動会の内容を簡略化し、練習回数及び事前指導の回数を減じた。
中学校	
精選・簡略化	様々な集会等を一本化した。
	体育祭について、生徒数減少による準備及び競技に係る負担軽減（生徒・教職員）のため、これまでの1日開催を見直し、半日開催にした。
	学年団で工夫し、優先度の低い業務、長年慣習化している行事を洗い出し、削減・縮小を図っている。
	体育祭（午前日程）と文化祭（終日日程）を平日に開催している。
	通学路確認（生徒の自宅場所を確認）を原則廃止し、必要がある生徒に関してのみ夏季休業中に実施することとした。

校内研修	
小学校	
指導案の簡略化	指導案を細案から略案に変更し、10ページ程度から3ページ程度に削減した。
運営の工夫	集中授業は1つにするとともに、一般授業も指導案検討会を行わず、先生方の参観を自由選択とした。

2 組織・体制

日直制	
小学校	
日直制の廃止	長期休業中の日直勤務を廃止した。

複数担任制	
小学校	
教科	3～6年生の技能教科については、専科が担当している。
	家庭科・書写・理科において、教科担任制を実施している。
	体育の授業を5・6年合同で実施し、各教員が得意な分野についての授業を行うことで、負担を減らすことができた。
	校区の小中学校で連携し、英語科について教科担任制を実施している。
その他	低学年、中学年、高学年での合同授業や授業交換をすることにより、空き時間を確保している。また、委員会・クラブ活動担当を複数体制とし、交代制で担当することにより、空き時間を確保している。
中学校	
教科	保健体育を複式で実施している。
	道徳の授業担当をローテーションすることで、負担を分散している。
学年	学年担任制により、負担の分散化、若手・初任者へのフォローなど、協働体制を強化している。

外部人材の活用

小学校	
ボランティア	授業・行事をサポートするボランティアを、チラシやSNSなどにより学校独自で募集し、学習発表会、授業（体育科）、よみきかせ活動において支援の協力を得た。
	「まなびポケット」を利用して、学習ボランティアを募集している。
登下校指導	学期始めに教職員が実施する登下校指導に、地域・保護者が自主的に参加している。
	学期始めに教職員が実施する登下校指導に、地域ボランティアが参加している。
	登下校指導は地域学校協働活動で実施している。
卒業アルバム作成	卒業アルバムに掲載する児童スナップ写真の選定を、教職員から保護者主体の卒業実行委員会へ移行した。
中学校	
登下校指導	登校指導を、月1回地域協働活動推進員が挨拶活動を兼ねて実施している。
試験監督	英語検定などの試験監督を、地域・保護者が担当している。

PTA

小学校	
組織再編	PTA組織（部会）の数を減らすなど縮小化を図った。
環境整備奉仕作業	PTAの取組であった休日の環境整備奉仕作業を保護者のみで実施している。

3 事務処理

通信票

小学校

配布・所見回数 の削減

担任所見を年2回から年1回へ削減した。

3学期制だが通信票は2回配布することとし、道徳の評価は年1回、総合的な学習の時間の評価は年2回とした。

3学期制だが通信票は2回配布することとし、外国語と総合的な学習の時間の評価は年1回、道徳の評価は年2回としている。

3学期制だが通信票は2回配布している。担任所見を廃止し、代わりに成績表に毎回コメントをつけることとしている。道徳と総合の評価は年1回としている。

通信票配布を前期・後期の年2回としている。道徳、総合、外国語活動の所見をなくし、観点別評価にする。

中学校

所見の廃止

通信票の担任所見を、令和3年度から段階的に削減し、令和5年度から完全廃止にした。これまで所見欄で伝えていた生徒の良さや頑張りを、年2回実施している生徒・保護者との三者面談において口頭で伝えている。

通信票の担任所見を、令和5年度から完全廃止にした。これまで所見欄で伝えていた生徒の良さや頑張りを、年2回実施している生徒・保護者との三者面談で口頭で伝え、学級通信等で生徒の活躍を周知している。

配布・所見回数 の削減

2学期制であるが、道徳は前期に1回、総合は後期に1回評価を記入している。

3学期制であるが、担任所見は3学期のみとしている。1学期と2学期の生徒の様子は、長期休業期間の三者面談で直接伝達している。

3学期制であるが、通信票は2回配布している。道徳と総合の評価は最終学期のみの1回としている。

業務の分担

通信票の作成を学年スタッフで分担している。

指導要録

小学校

記載の簡略化

指導要録の記載を必要最小限としている。

中学校

記載の簡略化

総合所見について、簡略化した記載具体例に則り記載している。

業務の分担

指導要録の作成を学年スタッフで分担している。

学年・学級経営案		
	小学校	
廃止・移行	学年・学級経営案を廃止し、個人目標へ移行している。	
	中学校	
廃止・移行	学年経営案を作成し、学級経営案は作成していない。	
	学級経営案と学年経営案共に作成しないこととした。	

アンケート		
	小学校	
フォームの活用	各種アンケートをフォームで実施し、即時集計・即時フィードバックを行っている。	

学校徴収金		
	小学校	
集金回数の回数	学校徴収金の納入回数を、年度初めの一括納入、前期・後期の分割納入のどちらかを保護者が選べるように設定している。	
	中学校	
現金徴収の廃止	毎月の現金徴収を廃止し、PTA役員会を通じて保護者との合意形成を図った上で、口座振替に変更した。	

4 学 習

学習指導		
	小学校	
学習アプリ	授業や家庭学習でAIドリルを活用している。	
週案簿の簡略化	週案簿を必要最低限の内容とするなど、簡略化を図っている。	
宿題等の廃止	家庭学習として位置づけていた「一人勉強」を廃止した。	
	中学校	
学習アプリ	「eライブラリ（AIドリル中心の学習支援サービス）」を活用している。	
	「eライブラリ」と「スタディサプリ」を活用している。（自治体の補助）	
	「eライブラリ」、「すらら」、「学研」を活用しており、小中連携している。（保護者負担）	

定期考査	
中学校	
廃止・代替	定期テストを教師作成から業者作成のものに移行した。
	定期テストを廃止し、教員作成の単元テストを実施している。
回数の削減	定期考査を1回分削減し、単元テストで補うこととした。
	2学期中間テストを廃止し、各学期1回にした。
自動採点システム	自動採点システムを活用し、処理の効率化を図っている。
報告書の廃止	定期考査報告書を廃止した。

5 部活動

時間・回数	
中学校	
時間の削減	平日は18時までに終了することとしている。
	夏は18時まで、冬は17時30分までとしている。
回数の削減	月に1回、連続した土日を部活動休止日としている。

活動の工夫	
中学校	
複数担当制	顧問2名体制で、休日はどちらか1名での指導を推奨している。
	顧問3名体制で、休日を含め交代制にしている。（卓球部・バスケット部・陸上競技部）

地域移行	
中学校	
地域移行	一つの部活動をR5から地域移行した。生徒は帰りの会終了後に小学校へ移動し、小学生とともに町のスポーツ少年団のコーチのもとで練習をしている。練習試合や大会は中学校の顧問が引率しているが、普段の練習は、スポーツ少年団のコーチが指導をしている。これにより、放課後の時間を教材研究等に充てることができる。

6 会議・打合せ

職員会議

小学校

職員会議

会議冒頭に終了時刻を宣言している。会議資料を事前共有し、当日の説明を必要最小限にすることで、会議の効率化を図っている。

資料の事前配布、協議事項の焦点化により、会議の効率化を図っている。

会議時間は60分以内と明文化している。

職員会議を行わない月を年2回設定している。

中学校

職員会議

PCを使用し、ペーパーレス化を図っている。

諸会議

職員会議後、1時間ほどかけて実施していた生徒指導ケース会議を、人員の精選や資料様式の工夫により、空き時間等に10～15分程度で実施できるよう簡略化した。

朝会・打合せ

小学校

職員朝会

職員朝会を行わず、週1回の職員集会実施で固定している。

職員朝会を週1回にしている。

毎朝の三役会及び職員朝会を廃止した。

学校ポータルサイトを開設し、行事予定や連絡事項を各自が端末に入力できるようにすることで、職員朝会を週2回にした。

中学校

職員朝会

職員朝会の時間を短縮し、Teamsで情報共有している。

週5回の職員朝会を週3回に削減した。

7 連絡・周知

保護者との連絡

小学校	
HP	各種お知らせや動画、お便り等の配信にHPを活用している。
留守番電話	休日等について、留守番電話での対応としている。
連絡ツール	面談は、原則30分以内、16時30分までの対応としている。電話連絡は16時30分までとし、電話対応時間以降の連絡や欠席連絡、家庭への配布物（お便りや学級通信等）には「まなびポケット」を活用している。
	お便りは「マチコミメール」で配信している。
	欠席連絡に「〇〇市LINE公式アカウント」を利用している。
	欠席連絡やお便りの配付に「tetoru」を活用している。
	「tetoru」を活用し、保護者からの連絡は電話ではなくメールとしている。PTA総会資料もPDFで送信している。
	欠席連絡に「まなびポケット」を活用している。これにより、電話対応がなくなっただけでなく、学校内での連絡ミスがなくなった。
中学校	
留守番電話	平日19時以降と休日は留守番電話サービスを活用している。
連絡ツール	欠席連絡やお便りの配信に「マチコミメール」を活用している。
	「まなびポケット」を使い、保護者から学校への欠席連絡を行っている。

職員間の連絡

小学校	
情報共有	グループウェアの活用により、情報交換の効率化を図っている。
	学校ポータルサイトを開設し、行事予定や連絡事項を各自が端末に入力できるようにすることで、職員朝会を週2回にした。
	職員ポータルサイトを活用し、タイムロスなく情報共有を行っている。
	「LINEWORKS」を導入し、職員間の情報共有に活用している。授業のワークシートなど、職員の共有フォルダで共有している。
中学校	
情報共有	職員ポータルを活用し、タイムロスなく職員間の情報共有を行っている。
	職員室に大型モニターを設置し、職員の動態、生徒の出欠、行事等の情報を共有している。

8 意識醸成

保護者	
小学校	
保護者への周知	職員の働き方改革について、PTA役員等に周知している。
中学校	
保護者への周知	校内行事の削減・廃止など働き方改革推進についての情報を、学校だよりを通じて周知している。

職員・校内	
小学校	
職員の意識向上	業務改善のアイデアを掲示し、実施したものに赤い花、実施できそうなものにオレンジの花を飾っている。
中学校	
校内業務改善	業務改善のための校内ミーティングを定期的開催している。
	教職員に校内業務改善に関するアンケートをとり、皆で話し合う機会を設定し、いくつかを実施した。

9 その他

日常業務	
小学校	
校旗等の掲揚	毎朝行っていた校旗等の掲揚を廃止し、行事日等のみの掲揚としている。

働き方改革に関する 取組事例を募集しています！

青森県教育委員会では、「学校における働き方改革」に関する取組事例を募集しています。

どんな小さな取組でもかまいませんので、あなたの学校での取組内容や効果などを教えてください。主に本事例集への掲載などに活用させていただきます。

下のURLまたはQRコードからログインし、フォームで紹介してください。よろしくお願いいたします！

◆URL

https://apply.e-tumo.jp/pref-aomori-u/offer/offerList_detail?tempSeq=15971

◆QRコード

